



ご入学・進級おめでとうございます。春の訪れが感じられる季節となりました。春休みが終わり、教室には子供たちの元気な声が戻ってきました。子供たちは舞う花粉もなんのその、毎日外遊びに励んでいます。友達と春休みの思い出について話すなど活気にあふれ、一人一人の充実した春休みの様子が伺えます。

さて、令和5年度に引き続き、今年度も特別支援教育だより『Ciao!!』を発行することにしました。発行者である渡邊（特別支援コーディネーター・そよかぜ学級担任）は、数年前までイタリア共和国に3年間住んでいました。イタリアの人は老若男女、障がいがあっても、知らない人とでもみんな『チャオ!!』と言うだけで、初対面でも昔からの友達のように会話を乐みます。妊婦さんやベビーカーをおすママにも小さい子供にもみんなやさしく、インクルーシブが浸透している国だと感じました。そんなイタリア語の挨拶である『Ciao = チャオ!!』をタイトルに据えました。不定期の発行ですが、学校からご案内したいことや宇都宮市からお知らせがあった時などに発行したいと思います。



今回のお便りはNo.7です。2年間の特別支援教育だよりNo.1～6は昭和小 HP に掲載されております。お手すきの時にお目通しただけですと嬉しいです。↑QRコードはこちら



LRT に乗ってベルモへ Go! での出来事

そよかぜ学級（特別支援学級）の児童は、自立活動という時間にコミュニケーションについて学んでいます。時間割では自立活動と銘打っていますが、どの子にも生きていくうえで必要なことを、その子の必要感に応じて、多岐に渡って学ぶものです。学びをリアルな現実世界で生かせる場として、昨年度末に「校外学習・LRT に乗ってベルモへ Go!」を企画しました。

まず、子供たちから行ってみたい場所についてアンケートをとり、現実的にみて本当に行ける場所なのか、何を目的に行くのか等をじっくりと納得のいくまで討論します。一連の流れが決まったら、お店のリサーチをし、おおよその金額を計算し、ロールプレイングで支払いや乗車等の予行練習をします。その成果を実践するとき、それが今回の「校外学習・LRT に乗ってベルモへ Go!」でした。

そよかぜ学級では「自立」することをテーマとしています。今年度も「教員は見守るスタンス・限界までは極力手や口を出さない・まずは自分でやってみよう」をモットーにしてきました。

子供は、自分で全て決めたことですから、途中で

諦めたりすることはできません。もし壁に直面しても、自分でなんとかしなければなりません。予定や流れは完璧！ばっちり計画を立てました！もし予定と違うことが当日起きてしまったら、それはもう…大変なことになります。

しかし、現実にはハプニングがつきものです。無事に支払いが終わってみんなで荷物をまとめようとしたら…あるお子さんのリュックサックが無い！のです。まさに想定外の出来事。

でも次のイベントの時刻が刻々と迫ってきている！さあ、子供たちはどうするのでしょうか！？

子供たちは記憶を辿ります。「この近くで…確か、トイレに行った後に…椅子のところで待ち合わせしたから…その場所にあるはず！」みんなでドキドキ話し合いながら現場に向かいます。すると奇跡的にそのリュックサックが、なんとトイレ前の椅子にそのまま鎮座していたのです。子供たちは全員で協力し、みんなの記憶を頼りに話し合い、無事にリュックサックを探し出したのです。

さらに、あるお子さんは、店員とコミュニケーション

ョンをとる(注文する)ことに極度の緊張感があったのですが、高学年のお友達にサポートしてもらって克服し、最後の頃にはドーナツ屋さんで一人で注文をし、一人で清算を臆することなくこなす姿が輝いていました。

結果的においしいランチをフードコートで美味しく食べ、自分たちで注文や筆算、清算をしたお土産をたっぷり抱えて学校に帰りました。

そして、学校に帰るや否や、クラスの子供からの質問攻めスタートです。「そよかぜさん、いろんなところにおでかけできていいなあ♪今日はどこに行ってきたの？何を買ってきたの？えっ、LRTに乗ったの？自分で注文してきたの？すごい！！」

さて、リュックサックを紛失したとき、“臨機応変に”“柔軟に”状況を把握し、友達を責めることなく協力して解決できた子供の姿に成長を実感しました。課題を克服できたとき、新しいもう一人の自分を発見できます。それを目の当たりにすることができました。

子供には、それぞれの特性に合った学び方をする権利があります。お子さんの発達、感情のコントロールなど、その子なりの困り感に合わせた工夫のもとで、その子なりの取組ができ、お子さんが幸せに安心して学校生活を送ることができる、そんな取組をそよかぜ学級では当たり前に取り入れています。また今年度もいろいろと楽しい企画を考えていきたいと思っています。

かがやきルームは何をすることで？

『かがやきに行ってきます！』『いってらっしゃーい♪』

今日も廊下ですれ違う、かがやきルームに向かうお子さんに、いってらっしゃいをしました。かがやきルームに行くお子さんは、自尊心が確実に高まっていることが伝わってきます。少人数で学ぶことで、自己肯定感の高まりが見られ、自信につながっているようです。



ところで、かがやきルームは何するところかご存じですか。かがやきルームの設置と指導員の配置は、宇都宮市独自の事業です。

かがやきルームで指導する内容は、基本的に学級担任や教科担任からの「今日はこの部分を／ここを教えて欲しい」とのオーダーを受け、現在学んでいる単元等のドリル・プリントや、同時刻に学級で行う授業と同じ内容です。

かがやきルームの利用については、校内支援委員会(校長以下関係職員総出)で検討・判断がなされます。その際に、その子が抱える困難さや課題、それを踏まえて指導の目標や方針・内容等が検討されます。それらをもとにその子に適した学習方法や学習活動等を考え、準備していきます。

本来かがやきルームは、学びにくさを補うための学習指導やソーシャルスキルトレーニング等を、個別や小集団指導の形態で行います。しかし、本校では個別・小集団による学習指導のみならず、自立活動に関連する活動をその子に応じて取り入れています。

授業中の教室にそーっとお邪魔してクラスの様子をみせて頂いております。何度か教室を訪れていると、『あっ、そよかぜの先生だー。こんにちば～！』、『また来たのー？わたあめ先生～♪』などと声をかけてくれるお子さんが増えました。廊下で会うと、『イタリアに住んでいたときは、毎日何を食べて生きていたんですか？』『わたあめ先生、そよかぜ学級ってどこにあるんですか？』『今日のお昼休み、ちょっとお邪魔してもいいですか？』、なんていう雑談もあり、そよかぜ学級存在を認識してくれたことを嬉しく思っています。

教室で過ごしていて生きづらさや困難を抱えているお子さんはいらっしゃいませんか。おうちの方だけで抱えないでください。小さいことでも構いません。かがやきルームについて気になることや、お子さんの能力や学校生活について心配なことがございましたらいつでもご連絡ください。担任をはじめとして学校一丸となって全力でお子さんを支えてまいります。

発行者：特別支援コーディネーター・SCM・そよかぜ学級担任 渡邊 由香里